

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立院庄小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>心とからだをきたえ、ともに学び合う児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すすんでまなぶ子 ・やさしい子 ・やりぬく子 	<p>つながりを大切に ～言葉のちからで～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人・自然・社会にかかわり合いながら学習する子どもを育てる。 ・友だちとなかよくできる子どもを育てる。 ・互いに支え合い最後までがんばる子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語Aについては、県平均と比べると正答率がかなり高い。 ○国語B、算数ABについては、県平均と比べると正答率は低い。 ○国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の2領域で正答率が県平均を上回っているが、「書くこと」「読むこと」の2領域で正答率が県平均を下回っている。 ○国語Bでは、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の2領域で正答率が県平均を下回っている。 ○国語の「書くこと」領域の正答率はABともに県平均を下回っており、国語Bでの記述式の問題について課題が見られる。 ○算数Aでは、「図形」領域で正答率が県平均を大きく上回っているが、「数と計算」領域で正答率が県平均を下回っている。 ○算数Bでは、「数量関係」「数と計算」の2領域で正答率が県平均を下回っている。 <p>○「あさって」とローマ字で書く(国語A)：本校70%(全国42%) ○目的や意図に応じてグラフを基に自分の考えを書く(国語B)：本校20%(全国51%) ○数の大小関係を理解する(算数A)本校：45%(全国74%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平日に、テレビやビデオ・テレビゲーム、携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットを4時間以上する児童の割合は、昨年同様に県平均よりも高い。 ○「家で学校の宿題をしている」児童の割合は、県平均よりも高い。 ○読書が好きだと答えた児童の割合は県平均よりも低いですが、平日に1時間以上読書をしている児童の割合は県平均よりも高い。 ○あいさつをしている児童の割合は昨年度よりも増加しており、県平均とほぼ同程度である。 ○「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」児童の割合は、県平均よりも高い。 ○「家で、学校の授業の予習をしている」児童の割合は、県平均よりもかなり高い。 ○「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合は、県平均よりもかなり高い。 ○昨年と比べて、「将来の夢や目標をもっている」「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合が、かなり高くなった。 ○「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合が、県平均よりもかなり高い。 ○「学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思う」児童の割合が、県平均よりもかなり高い。 ○国語の学習に興味をもって取り組んでいる児童の割合が県平均よりも高い反面、算数の学習に興味をもって取り組んでいる児童の割合は県平均よりも低い。

成果と課題	課題に対応した改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ○国語科における「漢字の読み書き」の基礎的な力は、昨年同様に定着率がかなり高い。 ○昨年と比較して、「読書は好きだ」と答えた児童の割合は低くなった(昨年度85%→今年度70%)ものの、平日に1時間以上読書をする児童の割合(本校20%、県16%)は、県平均よりも高い。 ○国語・算数ともに、無回答率が減少した。 ○算数科における「数と計算」の力は、昨年と比べて定着率が低い。 ○長文を含む問題では、尋ねられていることに対する情報の取り上げ方や、答え方等が食い違っていることが多い。 ○「書くこと」に対して抵抗をもっている児童の割合が多く、記述式の問題に課題がある。 ○起床時刻や就寝時刻、朝ご飯を食べることなど、基本的な生活習慣に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、読み聞かせボランティアと協力しながらさまざまな内容の本とふれあう機会をより多くもつとともに、落ち着いて読書に取り組む経験を積ませる。 ○問題データベースを活用し、「朝学習」や「ふり返り学習」の時間に苦手な部分の復習をしたり、家庭学習として取り組んだりする。 ○「朝学習」の時間に視写等の活動を行ったり、授業の中で長い文章や論理的な文章を書いたりする経験を積ませる。 ○岡山型学習のスタンダードに沿った授業を展開し、児童が意欲的に学ぶ学習を進める。 ○家庭学習の手引きを活用し、家庭学習100%提出の取組を継続する。 ○PTAと連携しながら、児童の家庭での生活習慣や学習習慣を整える取組を継続する。 ○たてわり班活動をベースに、下級生を思いやりたりのために働いたりする経験を積み、その行動を価値づけすることで、児童の自己有用感をさらに高めていく。 ○児童会の「ほめるんカードの取組」とタイアップし、全校の前で善行児童を称揚する機会をつくる。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)	各校の具体的な達成目標(数値目標等)
<ul style="list-style-type: none"> ○学カテストを全学年で実施(2月)。 ○児童アンケートを実施(毎学期末)。 ○随時、保護者に協力を働きかけ、家庭学習をさらに充実させる。 ○上記の結果を受けて、指導方法等の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学カテストでは、50%以上の学級が正答率で全国平均を上回る結果を出す。 ○宿題の提出率を、全学年で95%以上に上げる。 ○「自分のいいところ」を、全学年全児童が5つ以上言えるようにする。 ○一年間に、1人あたり100冊以上の読書量を達成する。